

5年 下田移動教室



9月28日から30日までの3日間、5年生が静岡県の下田市にあるベルデ下田を活動の拠点として、移動教室を行いました。5年生の子どもたちにとって様々な活動や友達とのかかわりは心に残るものになりました。子供たちの感想をいくつか紹介します。

みんなと一緒に「マイム マイム」をおどりました。この時のみんなの顔は見たことのないようなどもすてきな笑顔でみちあふれていました。なんて良い学年なんだろうと思いました。

ぼくが移動教室で学んだことをしようかいします。それは5分前行動の大切さです。今までギリギリで大丈夫だったけれど、おふろや食事などでおそすぎてもはやすぎてもだめなので、改めて5分前行動は大切なだなと思いました。

私は移動教室で学んだことがあります。個人で行動するより集団で行動する方が楽しいです。みんなといふるとどうでもいいことでもすぐに笑ってしまいます。6年生の移動教室も楽しみです。今度は私がみんなを笑わせられるようになりたいです。

つりが楽しかったです。なぜならうきがいつしずむか分からなくてどきどきするからです。あと何がつれるかも楽しみで、どきどきすることが多くてとても楽しかったです。

ぼくが楽しかったのはシャボテン公園です。カピバラの毛をさわるとかたかったのでおどろきました。テレビで見るとやわらかそうだったのでおどろきました。また行きたいです。そして、まだ見ていない動物も見てみたいです。

心に残っていることはつり体験です。なぜなら初めて本当のつりをするからです。えさのつけかたがむずかしかったし、なかなかつれませんでした。でも、おじさんが「こうするといいよ」とアドバイスをしてくれたら魚がつれました。

たて割り班活動

中西小のスローガン「なかよし、なかにし」の中核を担うのが、たて割り班活動です。月1回の遊びやロング集会、交流給食会などを通して、学年を越えて交流を深めています。異学年交流で、リーダーシップ（まとめ導く力）、フォロワーシップ（協力、補助）、メンバーシップ（自主、役割）を学んでいきます。

今年度の活動も半分を終え、協力する姿勢や相手を思いやる行動が増えてきました。また先日のロング集会を境に、たて割り班のリーダーが6年生から5年生に引き継がれました。後期の活動は5年生を中心に計画していきます。新たなリーダーのもと、中西小の伝統が引き継がれ、豊かななかかわりが広がるように応援していきます。

（たて割り班担当 中野 翔太）

オリンピック・パラリンピック教育

2016年8月5日に開幕したリオオリンピックから、来年2月9日に開幕する平昌オリンピックへと受け継がれた権を受け取り、2019年のラグビーワールドカップのあと、2020年7月24日に開幕する東京オリンピック（東京パラリンピックは8月25日開幕）。“東京都の児童・生徒のよいところを伸ばし、弱みを克服するための取組を確実に推進し、国際社会に貢献し、東京さらには日本の更なる発展の担い手となる人材を育成していくことを目指す”ために、様々な機会を捉えて教育活動を行っています。先日は、「こころのチャレンジプロジェクト」として、オリンピアンである荻原 次晴さんが本校にみえて、貴重な時間を過ごすことができました。

『4テーマ×4アクション』“オリンピック・パラリンピックの精神” “スポーツ” “文化” “環境” の4つのテーマと “学ぶ” “観る” “する” “支える” の4つのアクションを組み合わせます。また、『重点的に育成する5つの資質』として “ボランティアマインド” “障害者理解” “スポーツ志向” “日本人としての自覚と誇り” “豊かな国際感覚” があります。そして、『4つのプロジェクト』 “東京ユースボランティア” “スマイルプロジェクト” “夢・未来プロジェクト” “世界ともだちプロジェクト(Global Friendship Project)” があり、これらを既存の授業に取り入れるように工夫しています。本校の “世界のともだち” は、「ドイツ連邦共和国」「ポーランド共和国」「モンゴル国」「ニカラグア共和国」「モザンビーク共和国」です。算数教室の前に掲示資料があります。よい機会ですので、みんなで少しづつ学んでいければなと思います。

（オリンピック・パラリンピック教育担当 岩浅 健介）